どうも みなさん こんばんわ

私は幽霊です

死んでまーす!

もう死んでるけど元気だよ!

特別読み切り、集中連載!!

出歯の女の子

デッパのおんなのこ

鈴木優太

出歯で女の子の

幽霊でーす

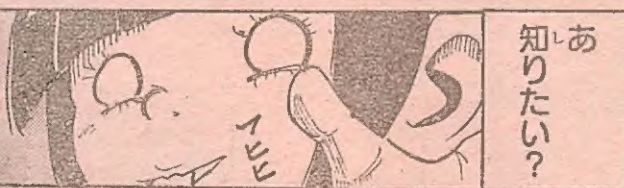
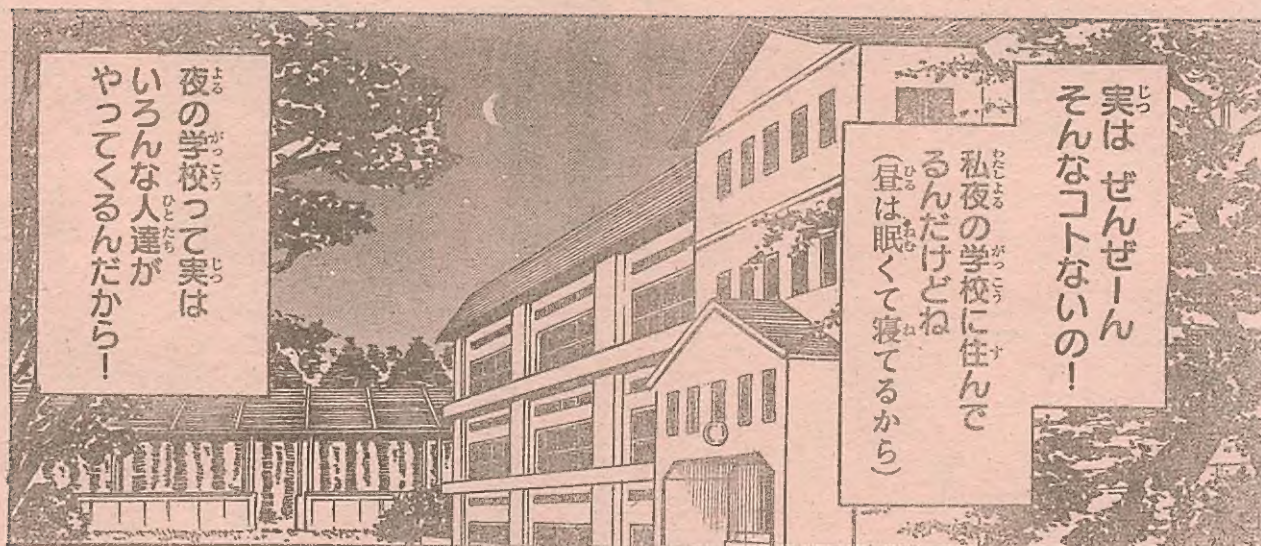
え? 死んでるのにどうしてそんなに明るいのか…ですって?

あ 知りたい?

そんなの幽霊生活が楽しいからに決まってるじゃないですか——

心を無にすれば空だって飛べるし

うおおお!

力めば壁だって通れるんだよ!

実は ぜんぜーん
そんなコトないの!

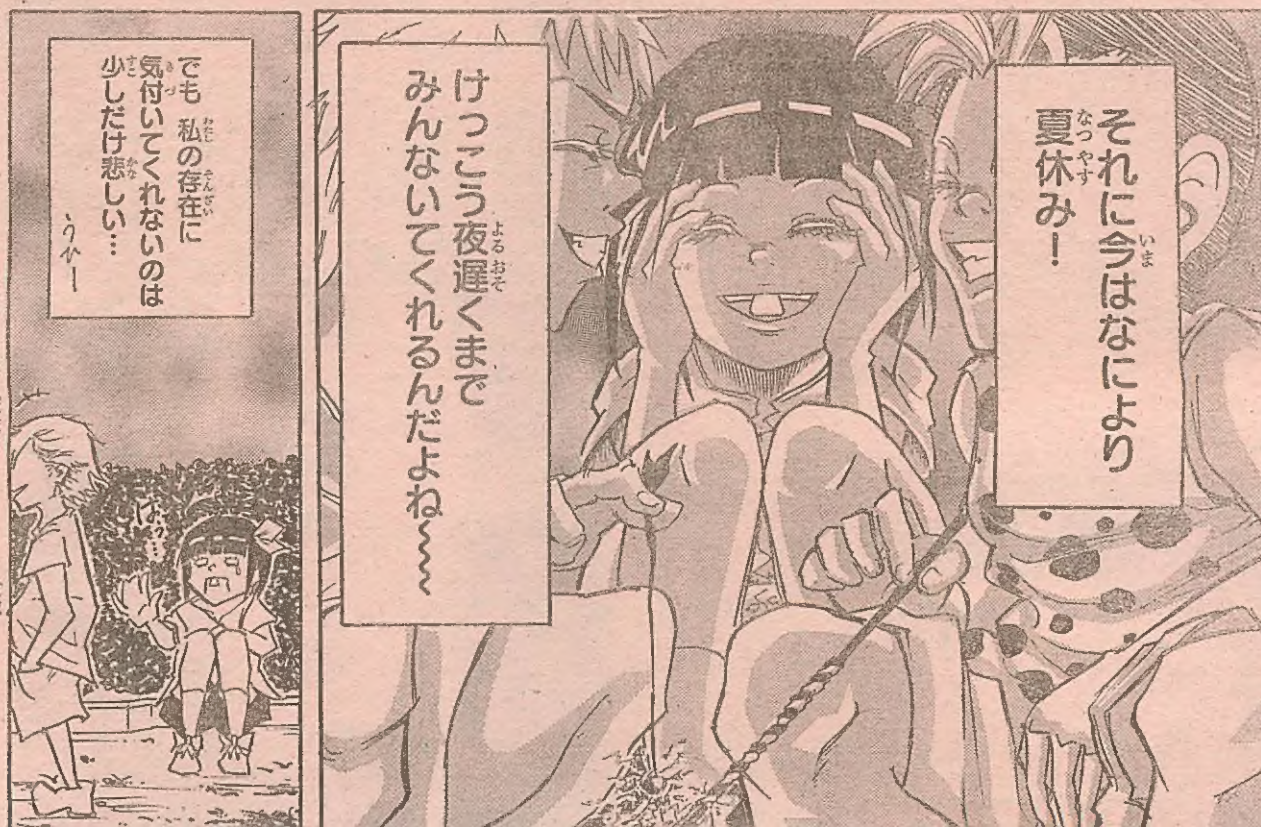
私夜の学校に住んでるんだけどね
（昼は眠くて寝てるから）

夜の学校って実は
いろんな人達が
やってくるんだから!

◆夜の学校は意外に賑やか!

夜な夜な練習する
スポーツ少年

ラブラブな
アベック達

校舎に
忍び込んじゃう
イタズラっ子

それに今はなにより
夏休み!

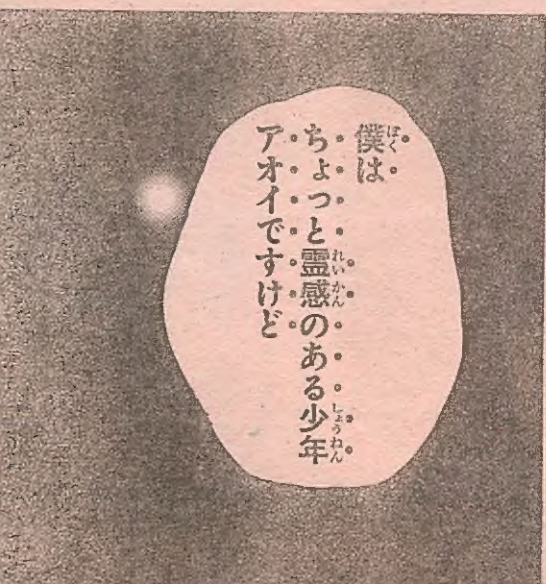
けっこう夜遅くまで
みんないてくれるんだよね〜〜

でも 私の存在に
気付いていてくれないのは
少しだけ悲しい…

うひー

でも いいの
みんなが来てくれる
コトがうれしいのー
だから今日も
返事はなくても
勝手に話しかけちゃう
のですー

こんばんわーー!
今日も
いい天気だねーー!
うん
夜だけどね

え

えええええええええ!!!
私が見えるの
――――!!?
何で!?
どどどど
とういうコト…!?
ドクン
僕は
ちょっと霊感のある少年
アオイですけど

よろしくー

ガバッ

!

話し相手が欲しかったの〜〜〜…!!

うわああああああ

おお!?

ふーん そっか

じゃあ 生きてた時のことは全然覚えてないんだ?

うん そうなの

だから 自分の名前も

パパやママのコトも住んでた家もいつ何で死んだのかも覚えてないのですよ

だけど この学校の生徒だったコトは覚えてるの

すごく学校がある日が楽しみだったのは確かなの

あと アオイ君の顔も見覚えある気がするんだけど…

!

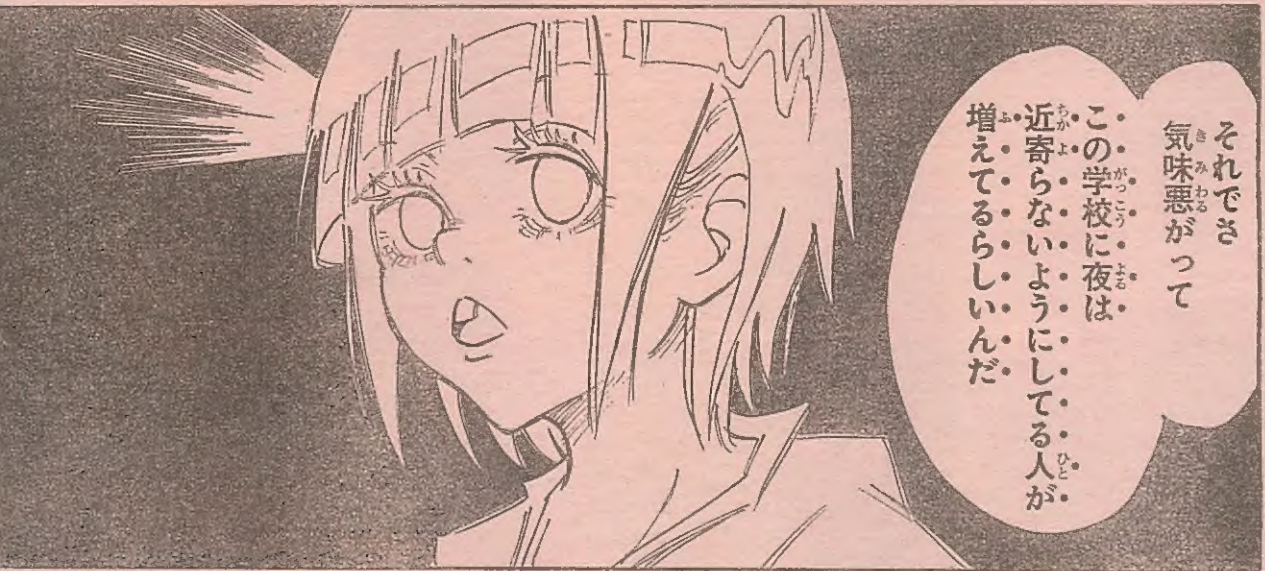
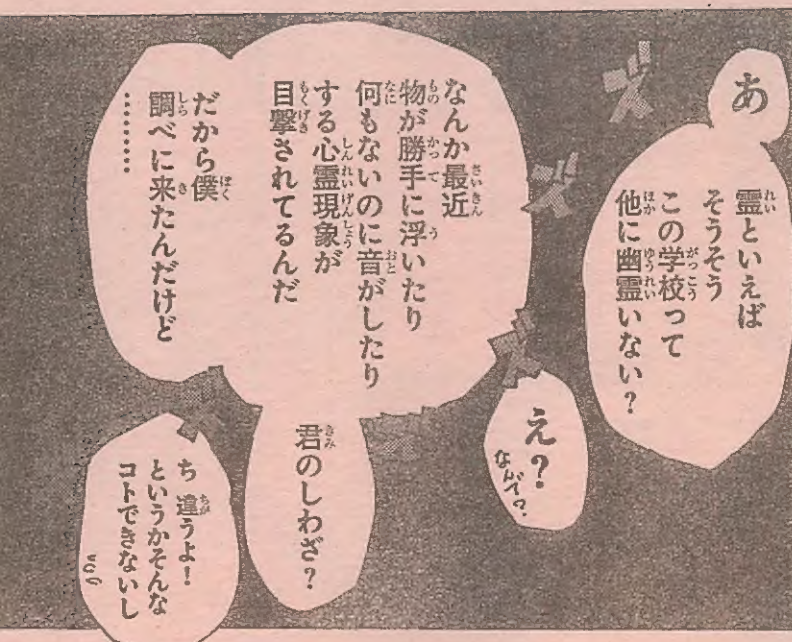
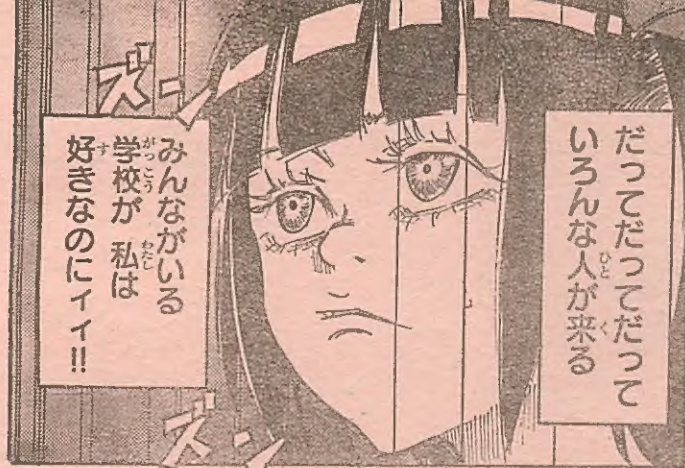
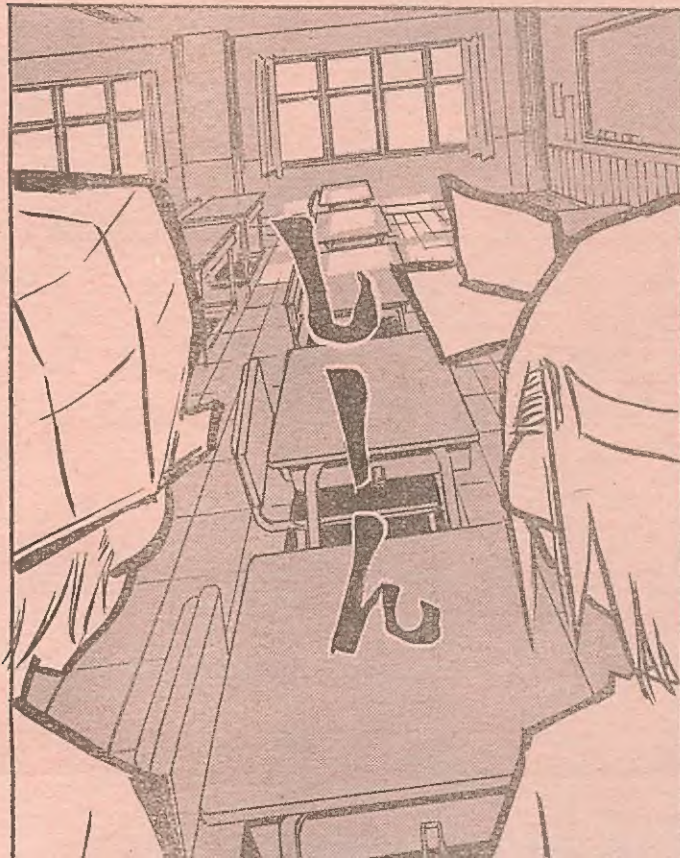
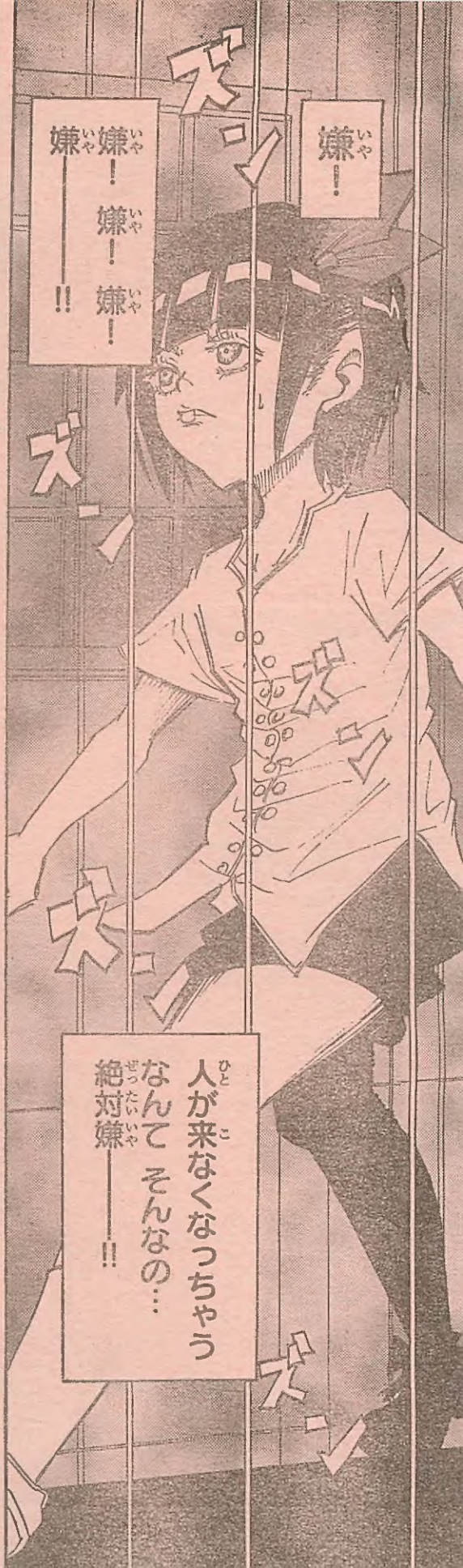
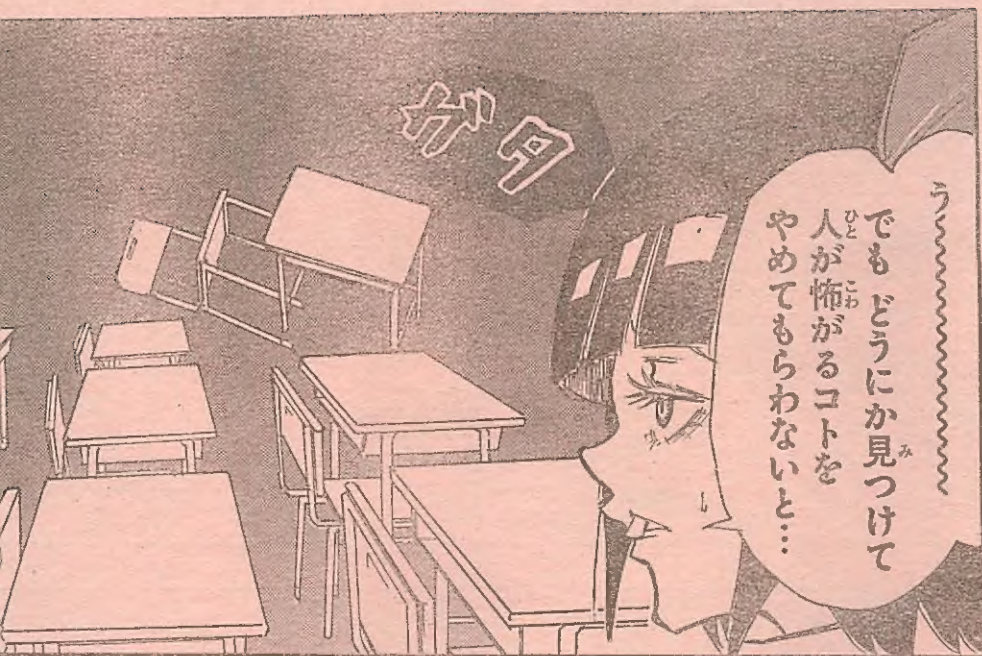
えっと… うーん…

ゴメン! ちょっと覚えてないや…

そっかぁー

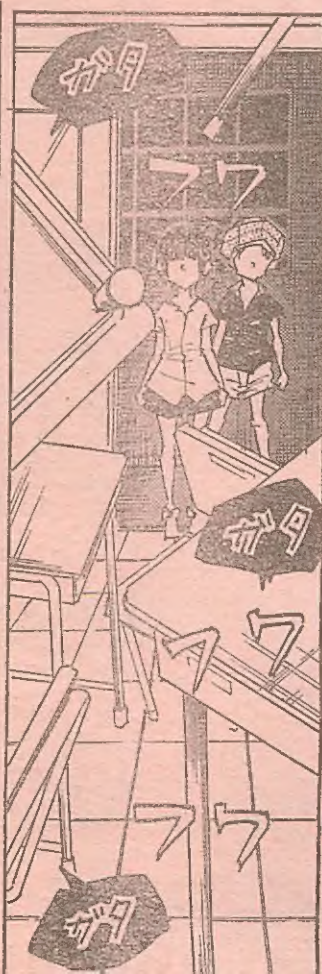
私あんまり目立たない生徒だったのかなぁ〜〜〜

まあ いいや

でも まさか
友達ができるとは
思わなかったよぉ〜!
ウフフ!
これからは
楽しくなるぞー
うひょー
……
あ
霊といえば
そうそう
この学校って
他に幽霊いない?
え?
なんで?
なんか最近
物が勝手に浮いたり
何もないのに音がしたり
する心霊現象が
目撃されてるんだ
君のしわざ?
ち 違うよ!
というかそんな
コトできないし
だから僕
調べに来たんだけど
………
それでさ
気味悪がって
この学校に夜は
近寄らないようにしてる人が
増えてるらしいんだ
ダメーー!!!
そんなの絶対
ダメー!!!
うわっ
ビックリしたぁ
どうしたの?
どこ行くのさぁー!?
悪霊退治!!
!?

嫌…
嫌！嫌！嫌！
嫌――――!!
ズーン
人が来なくなっちゃうなんて そんなの…
絶対嫌――――!!
だってだってだって
いろんな人が来る
みんながいる
学校が 私は
好きなのにィイ!!
まってよ！
どういうこと!?
悪霊??
人を怖がらせる幽霊なんて絶ええ対悪い霊！
悪霊――!!!
こんばんわ――――!!
悪霊さん
いますかぁー!!?
しーーん

で 悪霊って
どこにいるの？
いや
知らないよ
ガタ
う～～～～～
でも どうにか見つけて
人が怖がるコトを
やめてもらわないと…
!?
ガタ
フワ
ガタ
フワ
フワ
ガタ
机が…
勝手に…
あ
あ
どうしよう…
身体が震えて…
ううう…
こ こわい
こわいけど…
ギュッ
でも…!!
あ 悪霊さんですかぁ～？
お
おふざけは
やめにしませんかぁ～？

ガタ
ガタ
キョロ
ちょっと！ ねぇ！
近づいたら
危ないかもだよ！
悪霊さーん
どうして
こ こんなコト
するんですかぁ〜…
人…
来なくなっちゃいます
よぉ〜…〜
キョロ
ガタ
ガタ
ガタ

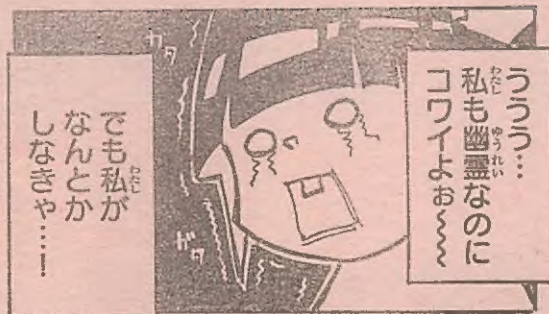
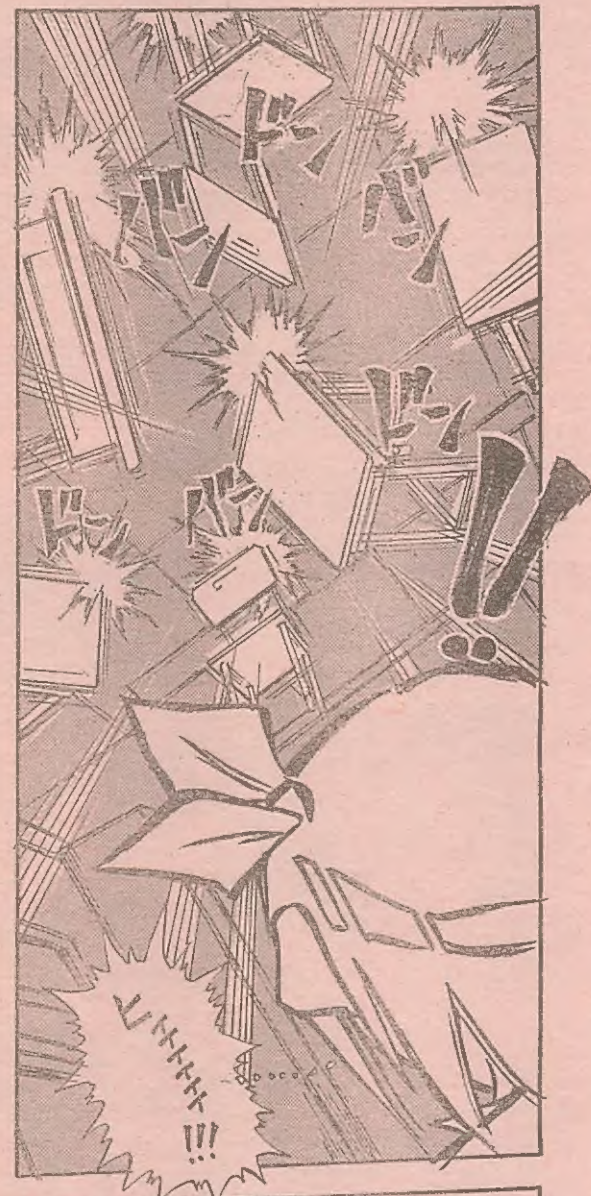
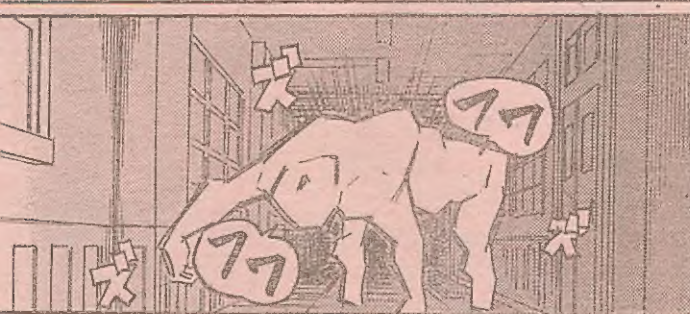
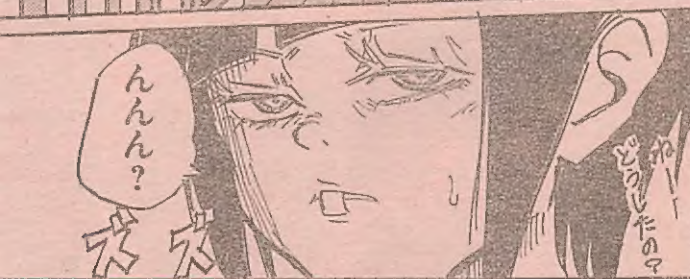
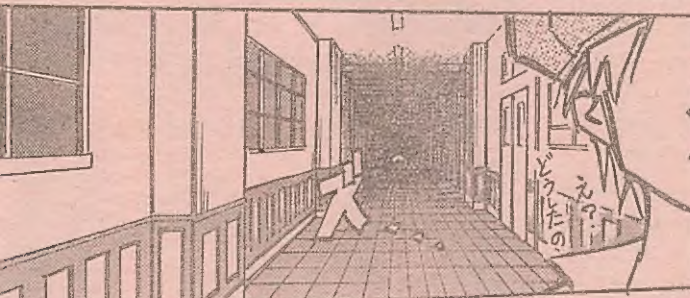
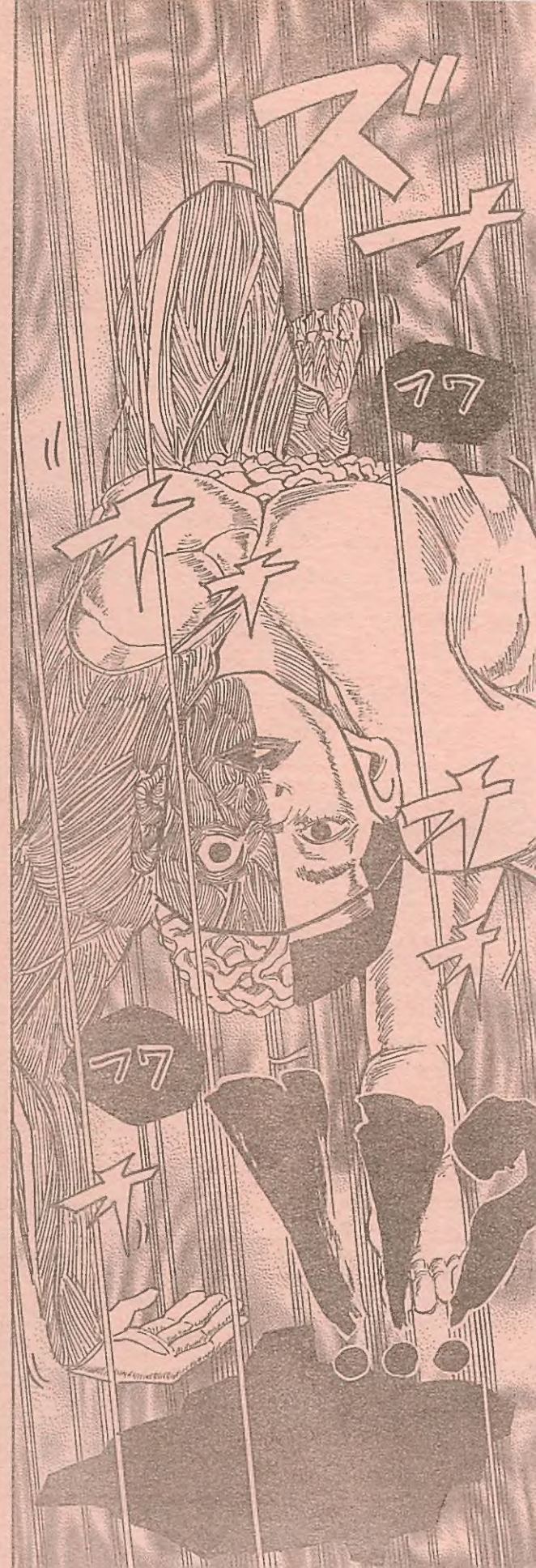
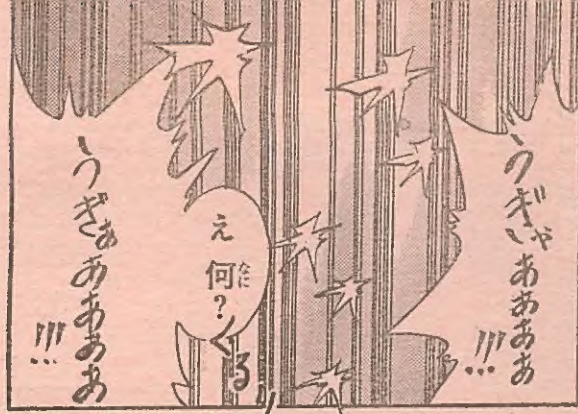
悪霊さぁぁん…
キョロ
ど
どこですかぁ〜
キョロ

どこに
いるんですかぁ〜
出て来て
くださいよぉ〜
ガバン

どうしよう…
どこにいるの…？
幽霊同士なんだから
見えないはずないよね…？

ヒュウウウウ…
ガン!!
あうッ

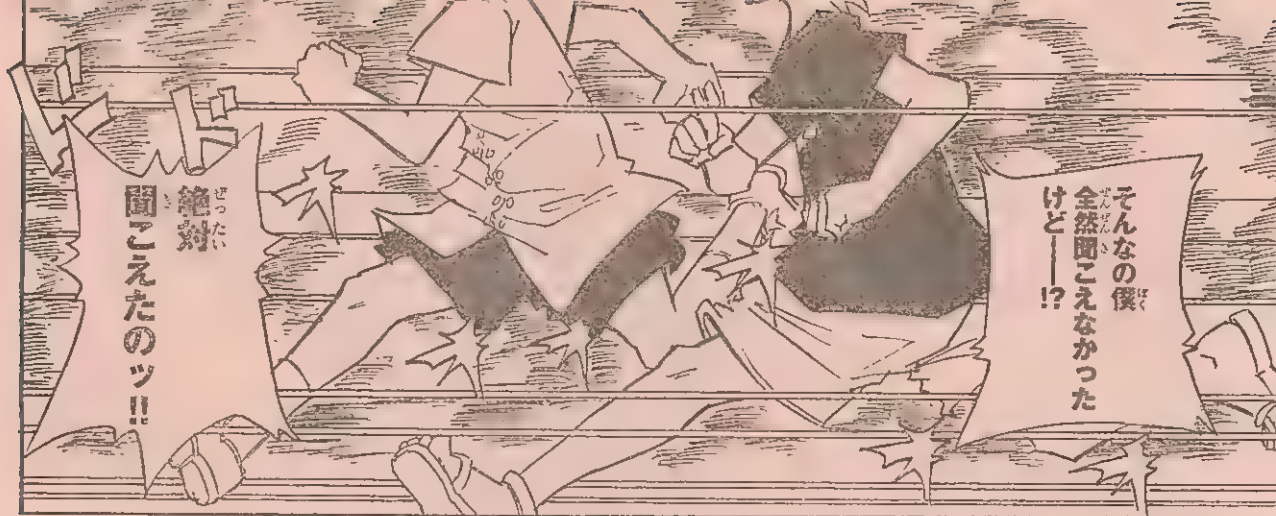
ううう…
私も幽霊なのに
コワイよぉ〜〜
でも私が
なんとか
しなきゃ…!
ガタ
ガタ
ドン
バン
ドン
バン
ドン
!!
ヒィィィィィ!!!

ほら!
戻って来なよ
危ないから!
いいから
君も探して!
あ! 他の教室
かも!
ガラ!
ガララララ
どう?
アオイ君
いた!?
え?
さぁぁ…
いや
探しておくれよ!!
ん?
え?
どうしたの
んんん?
ねー
どうしたの?
フワ
フワ

ズオ
フワ
オ
オ
オ
フワ
オ
ウギャあああああ!!!
え 何？
くるり
うぎゃあああああ!!!
アレは宙に浮いてちゃダメだよね絶対…！
こわかった…
ハァ
ハァ
うん…ダメ 人体模型はダメ アレはコワイ
マジで
ハァ
ハァ
あ
ねぇここ 不自然に土が盛ってあるけど
あやしいかも悪霊がいるのかなぁ？
いや お墓でしょ それ…
え？
たぶん学校で飼ってたウサギの墓だよ
最近死んだって聞いたからね

そっかぁ…
あ そういえばさ ウサギってさびしいと死んじゃうっていうよね？
え？
うん まあ 俗説だけどね
…それが どうしたの？
私も死んだ時 すっごくさびしかった気が するの…
？
何か思い出した？
ん〜〜ん… でも

11

もし このウサギも さびしくて死んだのなら
私とすごく 似てるなあって 思っちゃってさ

あ でも そのウサギは 屋根の下敷きになって 死んだらしいけどね
ええええ!!!
ピク
あ！ ちょっと 今度は どこ行くの!?
何か 聞こえたじゃん!!
はぁ？ うそぉ!?
何が!?
誰かの悲鳴!!

!!ほらあそこ——!!!
あわわっ
たた助け
え?
あ〜〜本当だ——
夜中に何やってんだか

ダメ!!!
嫌ッッッ!!!
誰かなんとかしてえええええ!!!
どさっ!
いってぇ～
!!
い今…
大丈夫か!?
なんとか―!!
地面につぶかる直前に止まった気が…
ポリポリ
おー ケガないみたいだねー
良かた良かた～

ねー まだ探すのー？
ちょっと休憩して
うーーん アオイ君のコト本当に見覚えある気がするんだけどなぁー
まだ言ってる
あ
まさか指名手配犯とか!?
違います

心霊現象の正体は

アオイ君…だったんだね！

え？

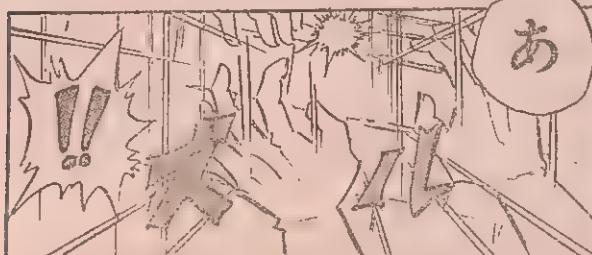
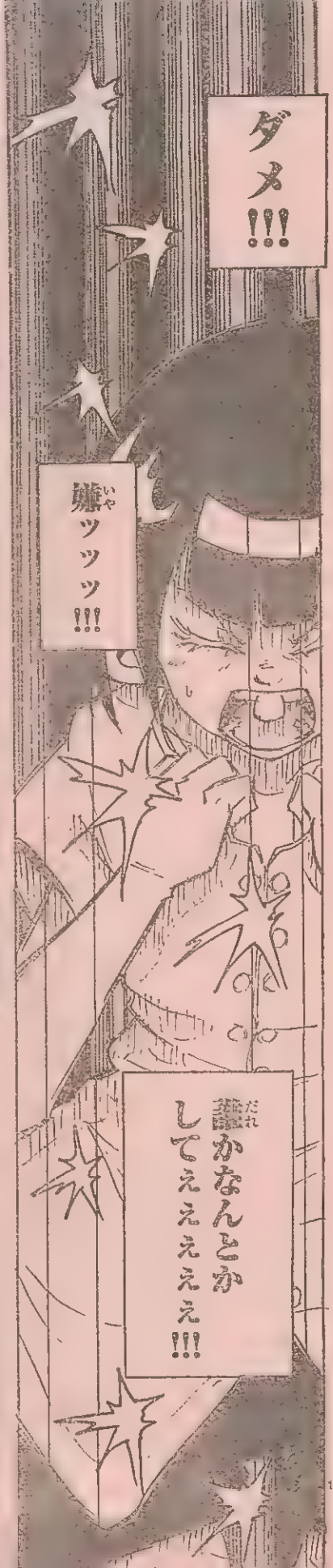
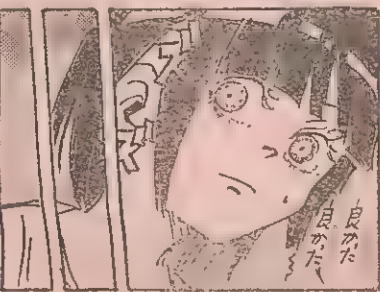
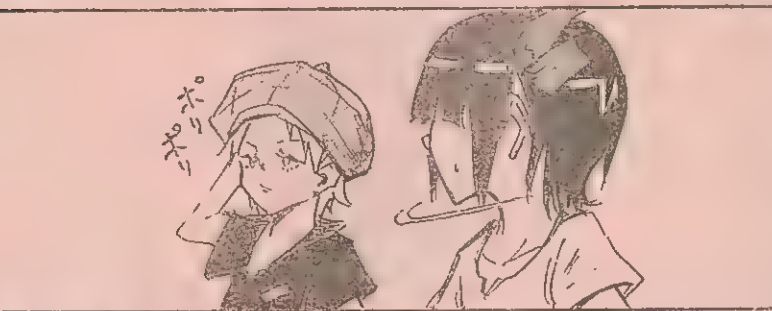
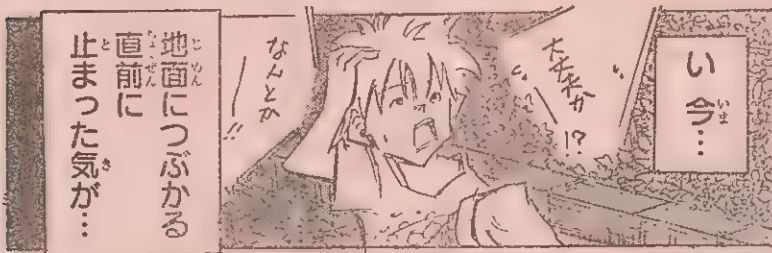
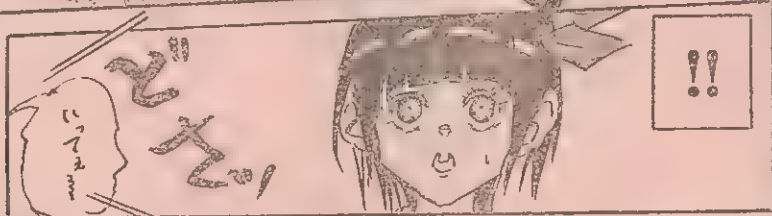
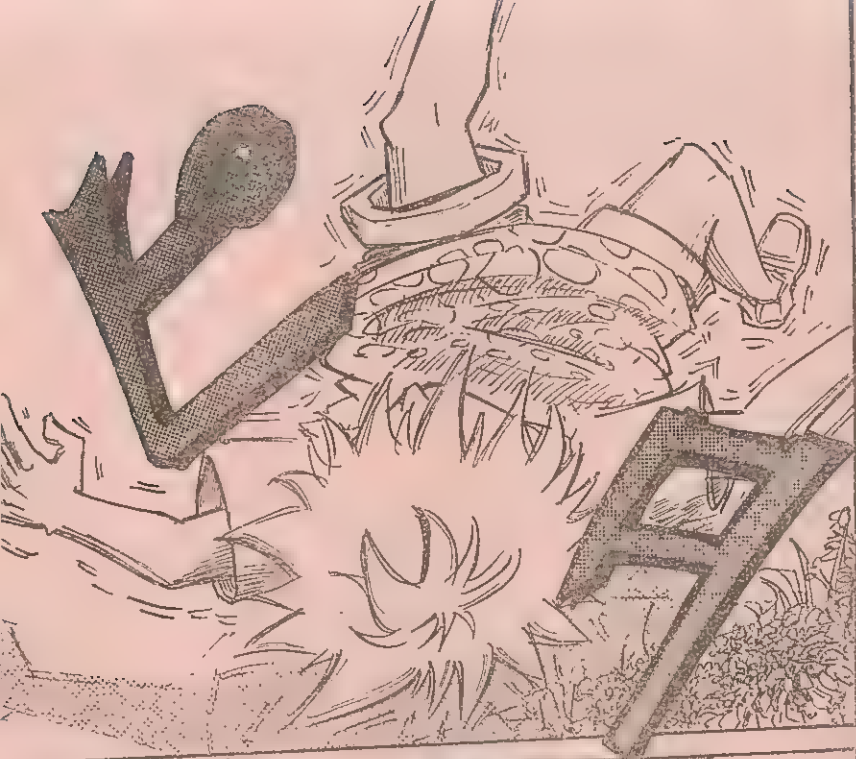
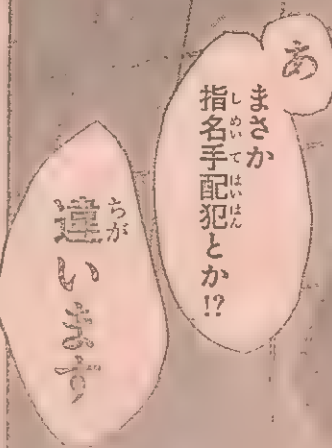
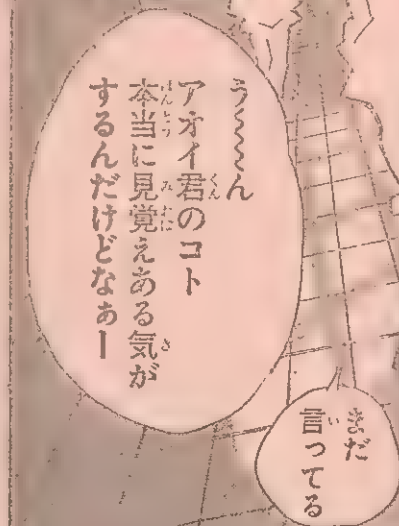
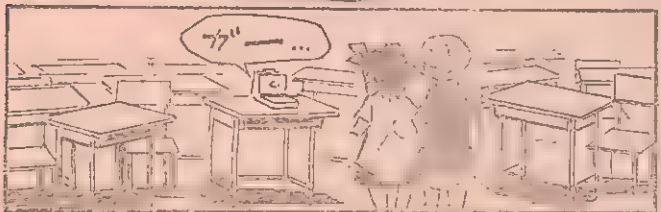
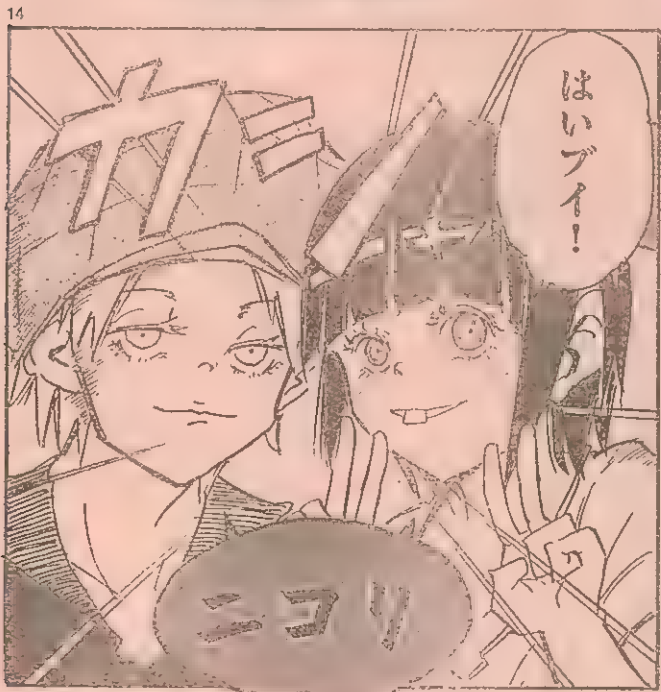
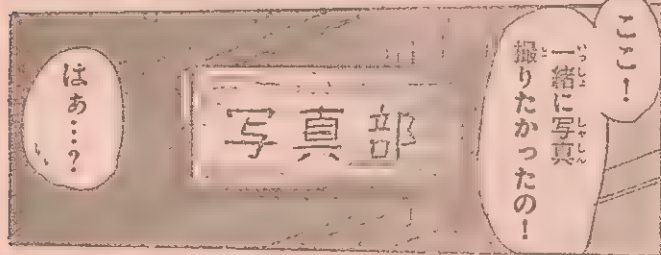
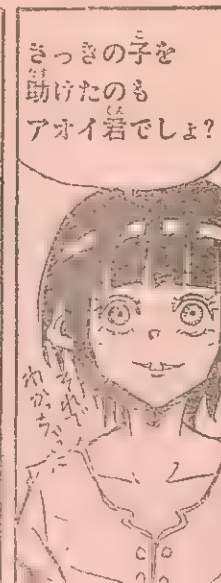
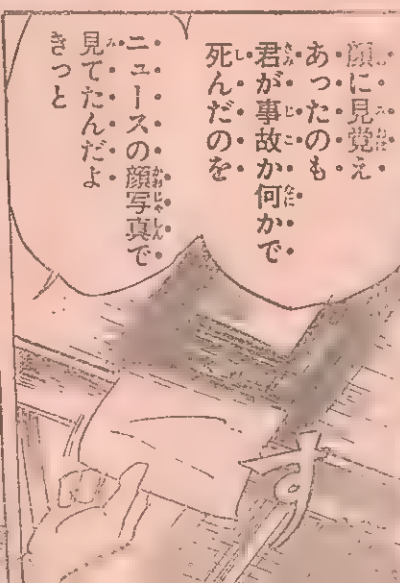
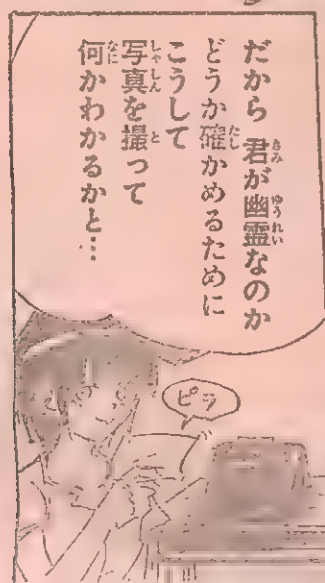
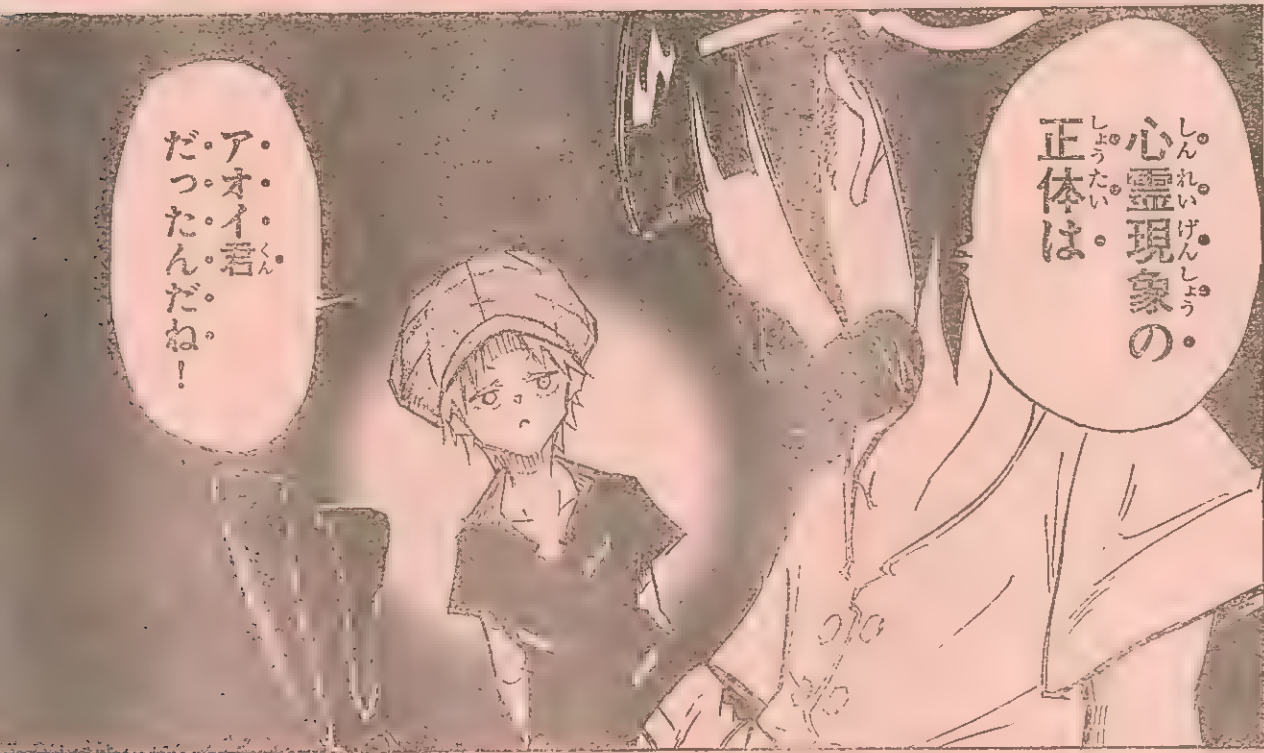
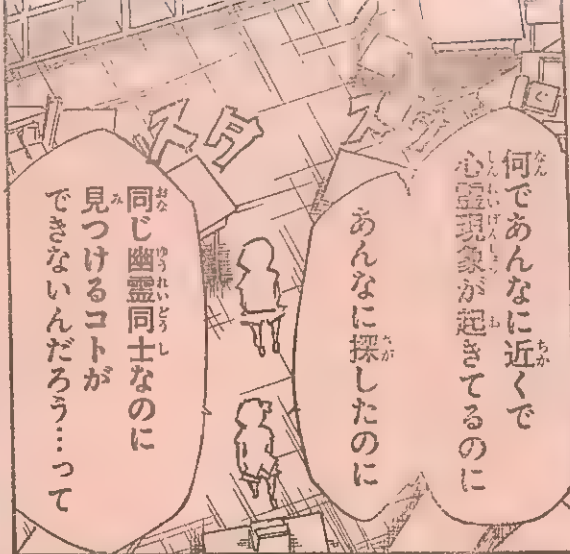
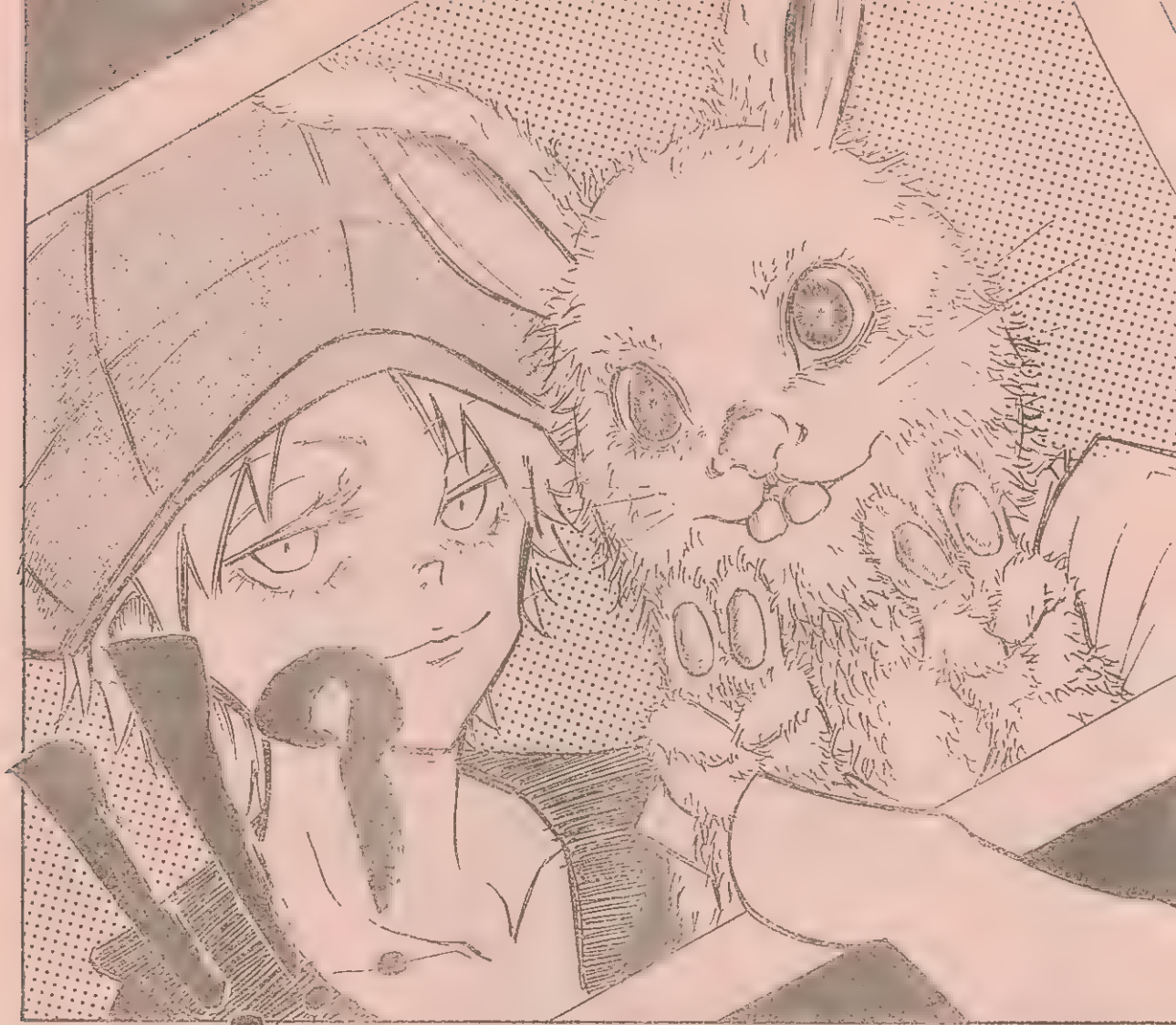
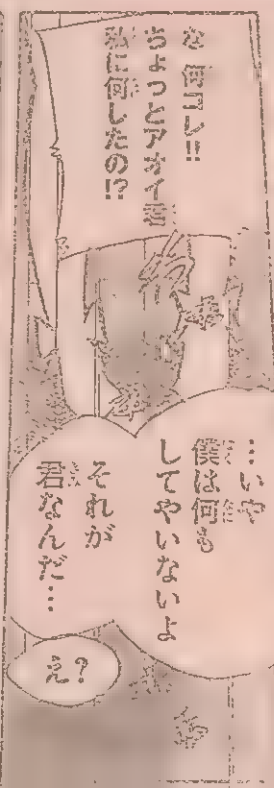
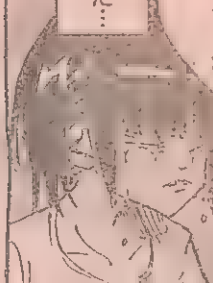
な 何コレ!!
ちょっとアオイ君
私に何したの!?

…いや
僕は何も
してやいないよ

それが
君なんだ…

え？

君は
屋根の下敷に
なって死んだ

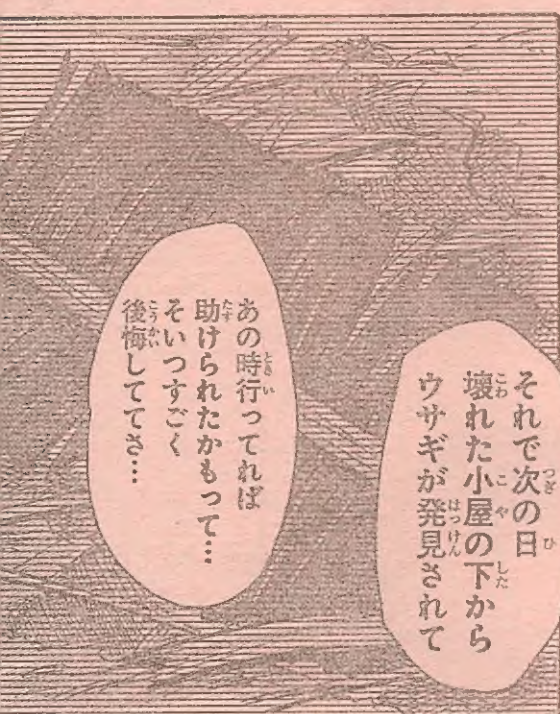
あのウサギだよ

あ
そうだ…私…
何で忘れてたんだろ
あんなにみんなに
かわいがってもらった
コトを
だから
学校がある日が
楽しみだった
コトを
私もみんなが
大好きだったコトを
そして
一番世話してくれた
飼育係の
ケン君の
コトを…
そうだあの夜
急に大きな音がして
目の前が
真っ暗になって
動けなくなって
痛くて
恐くて…
さびしくて
ああ…
それで何度も
私
「ケン君」…
「ケン君」…って
呼んだんだ
…でも
とても
人懐っこい
ウサギだったって
聞いてるよ
そっか…
人間が大好き
だったんだね
その強い想いが
君を人間の霊へと
変えたんだろうね
そうだったんだ…
ポロ
ポロ

本当は初めから
君の正体には
気付いていたんだ
君の耳が良かったのも
暗闇でも良く
見えたのも
ウサギの習性だしね
!
それとももちろん
僕は生きてるよ
そうだ!
じゃあ あの現象は
一体誰が…!?

君だよ
君が
無意識に
やってしまっていた
ことなんだよ

そしてあの時
助けたのも
君だよ

動物の霊ってのは
それだけでとても
強力で
長く存在するだけで
知らず知らず
力をつけていって
それで君も最近…
成仏しなきゃだね
!

このままだと
誰かを傷付ける
かもなんだよね
…うん
じゃあ
成仏しまーす
よ〜〜

本当は君を人間と思い込ませてあげたまま成仏させてあげたかったんだけど…
ゴメン…
んーん！
おかげで楽しい思い出も思い出せたし！
スク
スタ
ケン君のコトも思い出したし…
それに何でアオイ君の顔に見覚えあったのかもわかったしね
スズ
…
あの日！
すごく風が強くてさウサギ小屋ボロだから心配だって
飼育係のヤツ見に行こうかなって思ってたらしいんだ
それで次の日壊れた小屋の下からウサギが発見されて
あの時行ってれば助けられたかもって…そいつすごく後悔しててさ…
そいつ何度もゴメン！ゴメン！って‼
うんわかってるよ
自分のこと恨んでるんじゃないかってビビってて…‼
スタ
スタ
スタ
あはは！恨んでるわけないよ
さんざんお世話してくれたんだもん
ピタ

ね
飼育係の
アオイ ケン君

今まで楽しかったよ
ありがとう！

ひゅうわ

バイバイ！

僕のほうこそ

楽しかったよ！

夏休み最後の思い出に…。

出歯の女の子・おわり

さらに続くぜ、鈴木優太劇場！
次回の「不死身症候群」をお楽しみに!!